

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成21年10月16日(金) 6校時
児童 第2学年 男12名 女13名 計25名
指導者 教諭 及川 竜太

付けたい読解力	A 事柄の順序をおさえ、内容を読み取る力 B 問題とその答えに着目しながら読む力 C 読んだ内容を自分なりにまとめる力
---------	---

- 1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう (光村2年上)
教材名 サンゴの海の生きものたち

2 単元について

(1) 単元の位置づけ

【低学年の説明文】「じどう車くらべ」「どうぶつの赤ちゃん」順序を追って、正確に読む。

- ・問いと答えの文章構成である。
- ・文章全体への問いかけはあるが、文章全体のまとめはない。

「たんぼぼのちえ」

- ・対象が「たんぼぼ」のみ単一で、全体を時間の流れの順序で説明している。文章全体への問いかけはないが、文章全体のまとめはある。

「サンゴの海の生きものたち」

- ・対象が二組四種以上の生きものにわたる。時間の流れでない説明で「具体例1」と「具体例2」は、並列の関係である。
- ・文章全体への問いかけ、文章全体のまとめ、ともにある。

↓
【中学年の説明文】 目的に応じ、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読む。

↓
【高学年の説明文】 要旨をとらえ、自分の考えをもつ。

(2) 教材について

第1学年及び第2学年の説明的文章の読解力として、最も身に付けさせたいことは、「**時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。**」である。これを受け、本単元では、『サンゴの海の生きものたち』が互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読むことを主なねらいとしている。

本教材は、1の場面で、話題を提示し、読み手に問題を投げかけており、読み進めていくための視点が捉えやすくなっている。2の場面は、イソギンチャクとクマノミの共生について、3の場面では、ホンソメワケベラと大きな魚の共生について説明されている。どちらの場面も、2種類の生き物の特徴や関わり方が分かりやすく書かれている。4の場面は「サンゴの美しい海では、たくさんの生きものたちがかかわり合ってくらしている。」と結んでいる。このように、文章全体への問いかけ、それについての説明、まとめ（「初め・中・終わり」）という分かりやすい文章構成を捉えさせながら読み進めていくことにより、事柄の順序を考えながら内容の大体を読むというねらいにせまることができると考える。

(3) 児童について

児童は、前の説明文「たんぼぼのちえ」で、挿絵と文章を照応させながら、音読や、教科書へのサイドライン・ノートでのまとめ等の書く活動を通して、時間的な成長過程を「とき」「ようす」「わけ」の3つの視点で読み取ってきた。その中で「2、3日たつと」「やがて」「このころになると」などの時間の順序を表す言葉や、「～のです。」「なぜ～でしょう。～からです。」という問いかけや理由づけを表す言葉に着目し、その役割に気付く学習をしてきている。また、「このように」を使って全体をまとめることも学習した。

4月のNRTの結果では、「読むこと」の領域は、全国平均を上回っているが、「場面を想像しながら読む」に落ち込みが見られる。また「内容を考えながら読む」ことを苦手としている児童が多い。音読については、多くの児童が大きな声で正確に読むことができるが、まだ小さい声になって誤読したり、文字をとぼして読むなどの正確に読めない児童もいる。書く活動については、登場人物の特徴や気持ちが表れている箇所や大事な言葉にサイドラインを引いたり、吹き出しに気持ちを書かせる活動を行ってきたが、ラインを引きすぎたり、何を書いたらいいのか迷う児童もおり、大体の内容を読みとる力が十分育っているとは言えない。また書く速さや作業量に差があり、個人差が大きい。

(4) 指導について

本教材文を学習することで、児童に事柄の順序をおさえ内容の大体を読み取る力をつけさせたい。そのために、まず、文と文の関係を理解させながら文を正確に読めるまで何度も音読する活動を取り入れたい。その際、言葉のまとまりを意識した読み方ができるようにしたい。次に、「初め」の

段落の内容から読みの視点を見つけ、それをもとに、文章全体を読み取らせ、「初め」「中1」「中2」「終わり」という文章構成を把握させ、「説明文の読み方」を身につけさせたい。また、問いかけの部分から、二つの生き物の特徴やかかわり合い（相互作用）について着目させながら、互いの立場に立ち、吹き出しを書いたり、発表し合うことを通して、どのように役立っているか明確に理解できるようにさせたい。最後には、海の生き物について書かれた本を読み、「生きものカード」にまとめていく。初めて知ったことや生き物の秘密など中心的な事柄を見つけ、書くことができる力をつけさせたい。

本研究に関しては、単元全体や本時で身につけたい力を明らかにしながら授業を展開していく。また、初発の感想や教科書へのサイドライン、ワークシートへの書き抜き、生きものカードを書く活動を通して、確かに読み取る力をつけていきたい。単元全体を通して「生きもの図鑑」をつくることをテーマとし、興味をもって海の生き物の不思議さを見つける読書活動にもつなげていきたい。

3 単元の見目標

- (1) 海の生き物の共生関係や、説明文の組み立てに興味をもって読もうとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 「サンゴの海の生きものたち」が互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読む。(読むこと イ)
- (3) 語や文のまとまりや内容、言葉の響きなどについて考えながら声に出して読む。(読むこと エ)
- (4) 図書館などの本を読んで、「生きものカード」を作る。(書くこと イ)
- (5) 片仮名を読んだり書いたりし、片仮名で書く語を文や文章の中で使う。(言語事項 エ)

4 単元の指導計画 (12時間)

- | | | |
|-----------|------|---|
| 〈一次 つかむ〉 | 1 | ・教科書の写真などを見ながら、海の中のイメージを広げる。
・範読を聞き、感想を発表する。 |
| | 2 | ・学習のめあて(海の生きものずかんを作ろう)を確認する。
・教材を音読する。新出漢字の読み書きと難語句を確かめる。 |
| 〈二次 見通す〉 | 3 | ・形式段落に分ける。文章全体を4つに分ける。
・形式段落①②を読み、問題提起の文をつかむ。 |
| 〈三次 深める〉 | 4 | ・形式段落③④を読み、イソギンチャクとクマノミの特徴を読み取る。 |
| | 5 | ・形式段落⑤⑥を読み、イソギンチャクとクマノミのかかわり合いをまとめる。(本時) |
| | 6 | ・形式段落③～⑥を読み、イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを、動作化を通してまとめる。(イソギンチャクやクマノミの生きものカードを作る。) |
| | 7 | ・形式段落⑦～⑩を読み、ホンソメワケベラの特徴を読み取る。 |
| 〈四次 まとめる〉 | 8 | ・形式段落⑦～⑩を読み、ホンソメワケベラと大きな魚とのかかわり合いを、動作化などを通してまとめる。 |
| 〈五次 ひろげる〉 | 9～12 | ・本を読み、「海の生きものずかん」をつくる。 |

5 本時の指導

- (1) 目 標 イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取ることができる。

本時でつけたい読解力 A イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取り、ワークシートにまとめて、読み取る力

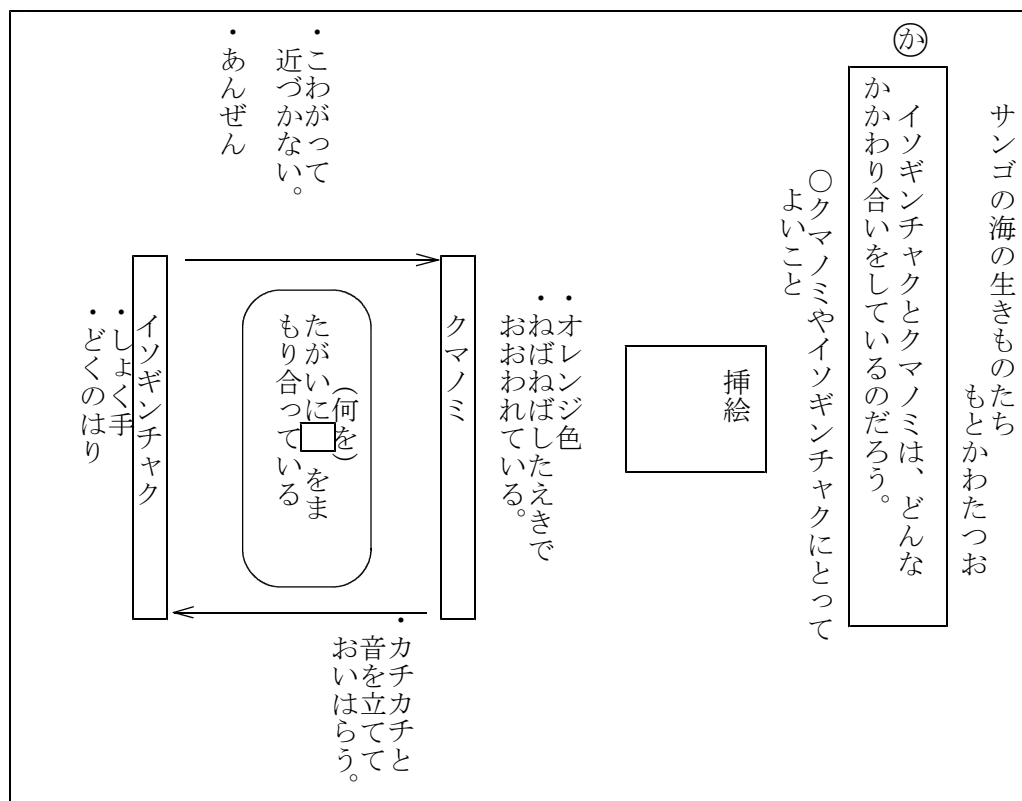
(2) 展 開

	学習活動 (○主発問 ・学習内容)	指導上の留意点・(評価方法)
つかむ 4分	1 話題提示の段落内容を想起する。 学習課題を確認し、見通しをもつ。 ・二つの生き物の体の仕組みや特徴を振り返る。 イソギンチャクとクマノミは、どんなかかわり合いをしているのだろうか。	・「サンゴの海の生きものたち」は「互いに役立つようにかかわり合って」という文と問題提起文を確かめる。前時を想起させながら課題を表示する。 ・「互いに役立つこと」を意識しながら、かかわり合いについて読み取ることを確かめる。 (挙手・発言) ・学習課題をつかめたか。 (観察)
見通す 4分	2 学習場面(形式段落⑤⑥)を音読する。(一斉読) 3 課題解決の見通しをもつ。 ○クマノミやイソギンチャクにとってよいことに気をつけながら読みましょう。	・読みの視点をもつ。 ・「かかわり合い」(～にとってよいこと)の視点を確認する。 ・言葉のまとまりを意識させ、声を合わせて、正確に音読させる。 ・どんなかかわり合いか考えながら音読させる。 (観察)
	4 内容を読み取る。(学び合い) (1)クマノミにとってよいことを読み取る。 ・⑤段落を音読する。 ・クマノミにとってよいことにサイドラインを引く。(一人学び)	・クマノミの敵を確かめる。 ・最初は鉛筆で引き、話し合ってから確認したら、色鉛筆で引くようにする。

ふかめる 27分	<p>○クマノミにとって、イソギンチャクといると、どんなよいことがありますか。</p> <p>○どうして、大きな魚は近づいてこないのですか。</p> <p>(2) イソギンチャクにとってよいことを読み取る。</p> <p>・◎段落を音読する。</p> <p>・イソギンチャクにとってよいことにサイドラインを引く。(一人学び)</p> <p>○イソギンチャクにとって、クマノミといると、どんなよいことがありますか。</p> <p>(3) 一緒にいるとよいことをふまえて、どんなかかわり合いになっているか、最後の一文をもとに考える。</p> <p>○どんなかかわり合いをしているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イソギンチャクの中にいれば、大きな魚に食べられないことを確かめる。 ・挿絵と本文を比べ、確かめる。 ・クマノミにとって、食べられないことが安全であることを確かめる。(挙手・発言) ・イソギンチャクの敵を確かめる。 ・たくさん引かないようにする。(教科書) ・最初は鉛筆で引き、確認後、色鉛筆で引き直すようにする。 ・クマノミが音を立てて小さな魚を追い返すことを確認する。(挙手・発言) ・かかわり合いをまとめているところを考えさせる。(教科書) ・ペア学習では、何をまもり合っているのか考えさせながら話し合わせる。(観察・挙手・発言)
まとめる 10分	<p>・読み取った内容についてまとめる。</p> <p>○イソギンチャクとクマノミになって、相手にお話しするように書きましょう。</p> <p>・まとめたものを発表する。</p> <p>・まとめの音読をする。</p> <p>6 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・板書をもとに、互いにかかわり合っていることを確かめながら読み取った内容をまとめる。(シート・観察) ・それぞれの生きものになったつもりで、発表させる。 ・イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを意識させる。

(3) 具体的評価規準

A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する児童への支援
守り守られているということが分かる言葉に、自分の言葉を付け加えて吹き出しにまとめている。	守り守られているということが分かる言葉を使って、吹き出しにまとめている。	板書やサイドラインをもとに、守り守られていることについて気付かせる。



一 「サンゴの海の生きものたち」教材分析表

意味 段落	形式 段落	キーワード	要点	言語事項 (難語句)	構成
1	①	たがいに やくに立つ	たぐさんの生きものたちが、 たがいにやくに立つようにか かわり合っている。	たがいに 役に立つ かわり合う (サンゴ)	【初め】 話題提示
1	②	かわり合い	どんな生きものたちがどんな かわり合いをしているのか。	くでしよう か。	
2	③	インギンチャク クマノミ	インギンチャクの触手の間に、 クマノミがうかんでいる。	しよく手 (インギンチャク クマノミ)	【中1】 インギンチャクとクマノミとのかかわり合い
2	④	さされない	インギンチャクの触手には毒 の針があるが、クマノミはさ されない。	これでくです。 でも ひみつ (どく)	
2	⑤	あんぜん	インギンチャクの中に入れば、 クマノミはあんぜんだ。	だから (あんぜん)	
2	⑥	おいはらう	クマノミはインギンチャクを 食べる魚をおいはらう 互いに守り合っている。	おいはらう こうして まもり合う	
3	⑦	ホンソメワケ ベラ	ホンソメワケベラには、明 るい青色の体で黒いすじが一 本あり、体長は十二センチほ どである。	その (すじ)	【中2】 ホンソメワケ ベラと大きな魚 とのかかわり合 い
3	⑧	そうじ	大きな魚たちは、ホンソメ ワケベラがきれいにそうじし てくれることを知っている。	でも くからです。	
3	⑨	食べ物	ホンソメワケベラにとって は、そうじしてとった虫が食 べものになる。	でも くのです。	
4	⑩	さまざまにか わり合う	たぐさんの生きものたちが、 さまざまにかかわり合って らしている。	このように	【終わり】 まとめ

二 日常の学校生活における言語活動

- ①本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。
- ②「はじめ、中、終わり」の文章構成を意識して文章を書くこと。
- ③朝のスピーチ等で知らせたいことなどについて友達に紹介したり、それを聞いたりすること。